

# 「真狩地区」における農村活性化の取組み

小樽開発建設部 農業開発課 ○雪田 久史  
西脇 康善  
大川 康広

国営農地再編整備事業「真狩地区」の実施を契機として、地元真狩村、JA ようてい、商工会（村・地域）、地域住民・農業者及び真狩高校等が連携して、大規模農地整備による効率的かつ安定的な営農展開の確立による地域の農業の振興、農村地域の活性化を目指す目的で、ワークショップを活用し、農村活性化プロジェクトづくりの実現を目指している状況を報告するものである。

キーワード：地域活性化、地域交流・連携、住民参加

## 1. はじめに

国営農地再編整備事業「真狩地区」では、真狩村関係団体参加の下、平成21年度までに地域の振興・活性化を検討する場として、6回のワークショップ<sup>\*1</sup>を開催している。

本報では、これらの具体的な取り組みについて報告するものである。

<sup>\*1</sup>ワークショップとは、参加者が自主的に作業する環境を整え、参加者全員により問題解決やトレーニングを行う手法である。近年では住民参加型まちづくりにおける合意形成の手法としてよく用いられている。

## 2. 真狩地区の概要

真狩地区は、後志管内虻田郡真狩村に位置し、羊蹄山南部に拓けた畑作地帯である（図-1）。

本地域の農業は、ばれいしょ、小豆、てんさいを中心とした土地利用型農業に加え、だいこん、食用ゆり、にんじんなどの収益性の高い野菜の導入による複合経営を展開している。

中でも昭和40年代より本格的な生産が始まった食用ゆり根は、主に関西方面に出荷され、生産量においては日本一を誇っている。

更に、ユリ根の栽培技術を生かし、ユリ花等の切り花生産や施設野菜についても生産されている。

しかし、本地区の農地は区画が不整形であり、一部に不規則な傾斜や排水不良等も起こしていることから、効率的な機械作業が行えず生産性も低く、農業経営は不安定なものとなっている。

このため、本事業は、5haの農地造成と1,023haの既耕地とそれに隣接する未懇地を再編整備する区画整理を一体的に施工し、生産性の高い基盤の整備を行

い、換地による土地利用の整序化により農業経営の規模拡大と合理化を図り、農業振興を基幹とした地域の活性化に資することを目的としている。



図-1 真狩地区位置図

## 3. 地域活性化に向けた取組み

平成21年1月27日に12名で開催された第1回目のワークショップは、農村景観の維持・保全のほか、生産物の品質向上や地域ブランドのイメージアップなどによる地域の振興策など幅広い内容の意見を頂きつつ、今後もワークショップを進めることを確認した。以来、ワークショップの開催は、平成22年2月23日までに6回行われた。ワークショップの出席者は第1回の12名から第6回では30名に増えた。

これまでの議論では、「農村活性化の活動」として、食・農業・くつろぎ・見学・体験の視点から検討を進め、農村景観を活かしたフットパスや農家民宿の活用、ゆり根の消費拡大のためのブランド化やゆり根祭り等の実現に向けた、課題の洗い出し等を行ってきた。

### （1）平成20年度ワークショップ

平成20年度は第1回のワークショップにおいて、地域の関連プロジェクトや現況景観を示すマップを見ながら、参加者全員の発言による情報提供を基に現況に対す

る地元認識確認を行った後、各班6～8名程度の班別討議で意見を取りまとめ、それぞれの代表者が班で出された意見を発表する形式を取った(写真-1,2)。



写真1 ワークショップ意見交換の様子

#### (a) これからの真狩村の農村景観

- ・基本的には羊蹄山と融和する農村景観の維持が良い。
- ・羊蹄山のビューポイント(景色の良い場所)をたくさんつくり、「〇〇の丘」などの名称を付けたリ、集落名を活かした農村景観づくりなどを行う。

#### (b) 区画整理工事によってできるのり面について

- ・のり面保護については、植生工事のコストを抑えると共に、人目の有無により植生のメリハリをつける。
- ・のり面には、花のほかにノイチゴやヤマブドウなどの食材も植えてみたい。ただし、農村景観向上はよいが、自分の畑に人を呼ぶことには抵抗があるし、維持管理も大変である。

#### (c) 農地再編整備による農道整備について

- ・ビューポイントとなる所には、待避場があった方がよい。また、サイクリングロードやフットパスは、ニセコ町等につながるように整備するとよい。

#### (d) 景観配慮の実施方針について

- ・草刈りは地域でできるが、花などの維持管理を皆に手伝ってもらえると助かる。

#### (e) 農地・集落景観の向上

- ・農村景観は、今のままでも十分に魅力的であり、都会の人はジャガイモの花や牧草ロールの風景だけでも感動する。これらの農村景観は農産物のイメージに直結する重要な要素だと思う。

#### (f) 地元農産物の PR、ブランド化、地産地消の取り組み

- ・地元の人々は普段から地元のものを口にしているので、

その美味しさが意外と分っていない。

- ・来訪者の目当てとなるような美味しいものがあると、もっと集客できると思われ、真狩村の中で地元の野菜が買える場所を増やすべきで、村内に足を止めさせないといけない。

#### (g) 地域資源の掘り起こし、資源の連携・活用

- ・観光の目玉(特に冬)が少なく、まっかり温泉をブランド化するなど、周辺との差別化を図る必要がある。

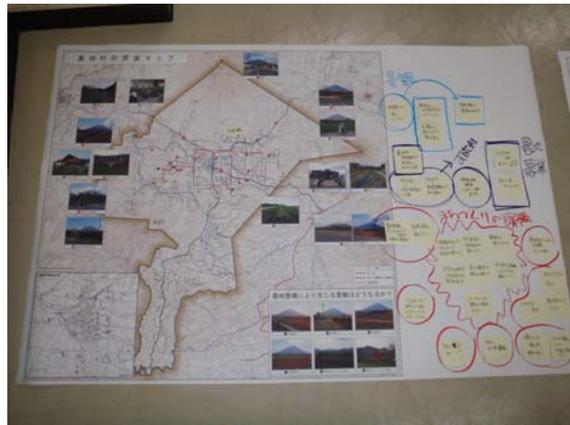


写真2 ワークショップの意見を貼った用紙

#### (h) 地域住民の憩えるスペースづくり

- ・気軽にコーヒーの飲める場所や、子供が遊べる親水公園などがあってもよい。

### (2) 平成21年度ワークショップ

平成21年度は、平成20年度の議論を具体化するため、真狩村の魅力を現在ある資源として“食・農業・くつろぎ・見学・体験”の視点から検討、また“あったら良い魅力”の検討を行った(写真-3)。

平成21年度の第4回ワークショップより導き出された4つのテーマについて、真狩らしい“農村活性化の活動”を検討し、テーマ毎に重要と思われる3つのプロジェクトに整理した。



写真3 ワークショップの意見整理中

(a) まっかり農村散歩道

- ・ショートコースフットパス
- ・サイクリングコース

(b) まったり真狩食

- ・地元産品強化（ゆり根等）
- ・ゆり根レシピ開発
- ・ゆり根加工開発

(c) まっかり農村ブランド

- ・ブランド化へのPR戦略
- ・価値を高める販売戦略
- ・ブランド化の可能性検討

(d) たっぷり農村まっかり

- ・真狩の「た・の・楽」（食べる・飲む・楽しむ）
- ・なまらやばい体験（収穫体験等）
- ・泊まれば止まらない民宿（農家民宿）

(e) プロジェクトが目指す“農村 真狩の将来イメージ” キーワード

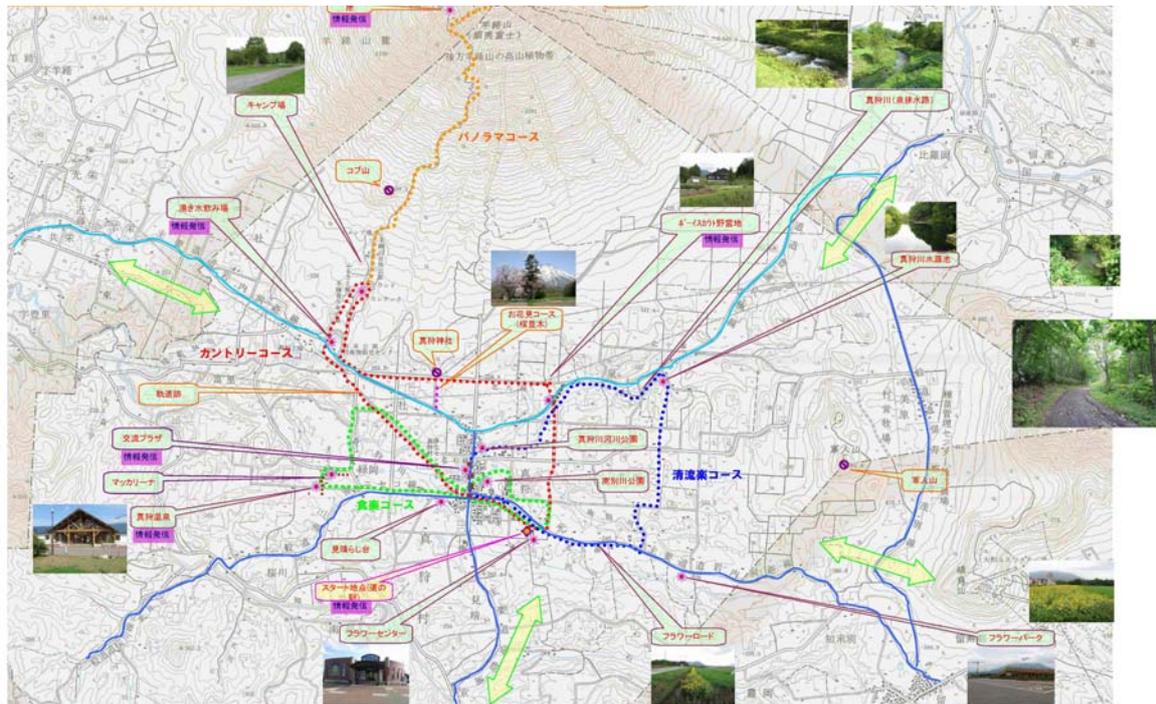
- ・美しい水・空気
- ・安心安全な農産物
- ・住民が満足

平成21年度は、議論の取りまとめとして、真狩らしい“農村活性化の活動”案を基に、今後、実践的な活動をスタートさせるための具体的な内容、課題を整理した（表-1）。

表-1 平成21年度の議論取りまとめ

プロジェクト名	「何をやるか？」アクションプラン内容	お世話役 (活動への事務局的担当)	検討結果
<b>Aグループ『真狩農村の散歩道』～真狩をゆっくり見て、感じて頂く農村の散歩道（回廊）づくり</b>			
フットパスコースづくり (サイクリングコース)	1. コース・パンフレットづくり 基本方針「新しい道路整備はせず既存道路を利用」 (1) コースづくり (2) パンフレットづくりと情報発信 2. コース周辺環境の整備 3. 認証制度	<組織の新設> 『フットパスをつくる会』 (構成員候補) ・役場:●氏・観光協会 ・商業者:●氏・農業者:●氏 (協力者、ガイド候補) ・学校長(退職後の健康増進) ・ようていハイヤー●氏	<安全確保> ・難易度別コース設定 <農家への配慮> ・参加者へ腕章など不審者との区別 ・立入禁止等標識配置 ・通過ポイントの設定
<b>Bグループ『まったり真狩食』～今ある、また新たな農産物を使った食の魅力づくり</b>			
ゆり根祭り	・ゆり根祭り、ゆり根収穫祭;販売、料理も出す	・役場・商工会、JA青年部 ・ゆり根生産組合会長	今後、お店をやっている人も巻き込んで活動を行うべき!
ゆり根レシピ整理等	・ゆり根レシピ集、下ごしらえ、保存法の小冊子 ・家庭料理的な、簡単で、普段使えるレシピ	・JA青年部、婦人部・商工会有志 ・JA女性部(以前作成冊子に追加)	
販売促進	・『コロッケ屋』(肉、野菜など真狩産食材) ・ゆり根コロッケの道の駅販売 ・ゆり根茶碗蒸しPR・ハープ豚の村内販売	(自薦)・教育委員会 ●氏 (推薦)・農産物加工研究会 ●氏 (候補者)	
中・高校生との連携	・真狩高校生と共同でレシピ等開発、PR活動 ・修学旅行先で、ゆり根など販売体験	・高校教諭 ●氏・JAの●氏	
リリーツアーリズム	・ときゆりバック化、ゆり根収穫、箱詰め体験	・マッカーリーナ●シェフ ・野菜ソムリエ●さん	
ゆり根加工研究機関	・地元にて、ゆり根の加工研究所を作る		
<b>Cグループ『まっかり農村ブランド』～真狩の農業・農村・農産物の“真狩らしいブランド”づくり</b>			
真狩の知名度アップ	ブランド対象の素材は全ての農畜産物 1. まっかりブランドの形成 2. まっかりブランドのPR	観光協会⇄役場(インターネット・ブログ) 商工会(会員のバックアップ)、飲食店	一過性のものにならないよう、地道な活道を継続
ゆり根知名度アップ	3. ゆり根料理の開発(レシピの充実、レシピ集)(PRすべき真狩産品の価値)	Bグループ(食づくり)と連動した活動	
<b>Dグループ『たっぷり農村まっかり』～もっと“たっぷり真狩の農村を”楽しんでもらう空間・活動づくり</b>			
“真狩の『たの楽』” た…食べる の…飲む 楽…楽しむ	1. 地元農産品等のアピール手法 2. 地元産素材を生かした飲み物 3. 楽しむプラン	<候補者一覧> ・役場:●氏(候補) ・農業者:●氏、●氏(農業に関する世話役) ・商工会(候補)	

図-2 フットパスのルート (案)



#### 4. あとがき

平成22年度は「農村活性化の活動」として、“食・農業・くつろぎ・見学・体験”の視点から、早急に実現が可能なフットパスについて、8月にフットパスルートを実際に歩き意見交換を行った(写真-3)。



写真3 フットパスルートの体験

更に今年度は、農業繁忙期を避け、1月～3月に2回のワークショップを開催し、フットパスルートの周辺環境整備について、農地・水・環境保全向上対策の活動団体や「村づくり研究会」(地元任意団体)と連携した直営整備及び維持管理手法について具体化する予定であり、平成23年度に試験的に整備できるように調整を図る予定である。

農村地域の活性化は、地域のやる気や熱意が推進のキーポイントになると考えるが、手法や情報提供等、専門家の助言や行政の補助等を受けると実施できる可能性が飛躍する。真狩村においては、国営農地再編整備事業「真狩地区」の実施を契機として、地元真狩村、JAようてい、商工会(村・地域)、地域住民・農業者及び真狩高校等が連携し、参加者が自主的に作業する環境を整え、参加者全員により問題解決を行い合意形成することで、地域の方々の協力を得ながらプロジェクトづくりを実施し、地域活性化を推進していきたい。

#### 参考資料

- (1) 平成20年度 真狩地区 農村環境業務
- (2) 平成21年度 真狩地区 農村環境調和配慮等業務